


450 台風等の出水に備えたため池の水位調整

取組主体【掲載年】	法人番号	事業者の種類【業種】	実施地域
鮎原下集落、鮎原上集落 【平成 29 年】	-	その他事業者 【農業、林業】	兵庫県
<ul style="list-style-type: none"> ● 鮎原下集落は、高齢化や農業の担い手不足など地域の諸課題に対応するため、平成 24 年に「鮎原下の 5 年後 10 年後を考える会」を立ち上げ、関係者で検討を進めていた。 ● 相原川流域では、周辺の農地や宅地の浸水被害が 10 年間で 4 度も生じていたことや、平成 26 年には台風等の大雨により鮎原小学校等が 2 度も浸水したこと等から、排水対策が地域の懸案事項となっていた。 ● 同会では、治水対策として地域内にあるため池を活用することとし、8 ヶ所のため池において事前放流施設の整備を行った。台風等の大雨に備えて農業者がため池の水位を下げ、35,100m²の雨水を一時的に貯留することで、河川の急激な増水を抑え、下流域の浸水被害の軽減を図った。 ● ため池は本来、農業用水を貯水するものであるため、放流には抵抗もあったが、大雨の直前と稲作後限定で放流することとしたことや、実際に浸水被害が軽減されたこと等から、農業者の理解が得られた。また、取組により集落内での防災意識が高まるとともに、これまでため池毎に行っていた定期的な点検やパトロール等で管理者同士の連携が図られるようになった。 			
			
			▲事前放流施設